

今季ワーストの声も多い。『長良川劇場』はどこへ行った？
岐阜 0-鳥栖【第3節】

F C岐阜は長良川で鳥栖と対戦し0対1で敗戦。目標の10位進出が遠のいた。残り試合はあと3。悔いなき戦いを。F C岐阜頑張れ！（ハマッチ）

シーズンの負け越しが決定した。岐阜0-1鳥栖。しかし、結果以上に「悲愴感」というものが感じられる...

立ち上がりの5分にいきなり失点を許し、出鼻をくじかれてしまう。相手のスローインからのあつという間の出来事で、易々と1対1の場面を作られ、鳥栖 F豊田は難なく決めただけだった。しかし、この直前の場面でも、ロングボールに対し、ちょっとGが処理するには短いボールを恭平が出掛かり、ペナルティの外だったので、ディフェンスも慌てて戻り対応する、などといった「バタついた」シーンも見られた。始めからDFに任せておけば事なきを得たはずだし、そのボールに対する責任を誰が負うのかハッキリさせないと、失点に直結しかねない。シーズンも終盤にきて今さら連携？と思わずにはいられない、あまりに初歩的なミスで連発から失点を許してしまった。

それにしても岐阜のパフォーマンスは安定しない。前節いいゲームをしたかと思えば、次は低調な出来に終始する。前節柏戦は決して悪い内容ではなかった。しかし、「継続性」がないのが、順位が上がっていかない一つの要因だろう。

さて、1点を追うことになったFC岐阜だが、この日は相手Gの室がファインセーブや、判断よくフィスティングするなど、なかなか有効な打開策を見出せない。そんな時こそセットプレーが有効になってくるのだが、この日はスタッツによると、Gが7本、FKは全てをカウントするので参考にはならないが、2本あり、事実、ゴール前でのチャンスもかなりあった。にも関わらず、得点に結びつかないのは、あまりに無策ではないだろうか。Gならショートコーナーでタイミングをずらす、Fならジャンプした壁の下を通すなど、工夫が何もなければ苦しい。

最後は精神論になってしまうかも知れないが、後半40分過ぎからだっただろうか...自陣に押し込められている時に、選手から「覇気」が感じられなかった。（もちろん、個人的に、だが）まさか諦めてしまったのか？ ケガ人などが出ていた状況を考えれば、そこからまだ10分は時間はあることは予想できるし、たったの1点だ。気持ちで負けたら終わってしまう。

試合後にはサポーターから指揮官に対する非難の声が飛んでいたが、ふがいない試合を見せられたら南米などでは暴動ものだ。暴動しろとは言わないが、我々も「12番目の選手」として、もっと厳しいことを言っていけないのかも知れない。そうした「サポーターの厳しい目」も選手を成長させる事と思う。何かを変えなければこのままズルズルとシーズンが終わってってしまう。

（あと博多本店と大阪堀江店制覇で一風堂全店制覇の男）

久しぶりにコアサポからのブーイングを聞きました。開始してから時間が経たない内の失点とその失点の状況、Gがいないのに思いっきりシュートを外すなど決定機をことごとく外す、などシーズン終盤でホームでそんな試合をやっていたらブーイングもやむなしでしょう。「本当に危機感を持ってやっているのか？」と疑ってしまいました。（ブラウ@翠魂）

鳥栖戦のレポートは裏面に続きます

【編集部より一言】11/28のホーム最終戦号では毎年恒例の企画を行います。

編集担当の吉田鑄造です。

11/28日発行予定の『岐大通』では、ホーム最終戦号恒例の今シーズンのベストゴール/ベストゲーム/MPを募集します。また、これも恒例の「今年の、そして来年のFC岐阜へ」もご投稿をお願い致します。（吉田鑄造）



岐大通
2010

today's guest

アビスパ福岡

2009 J2 第1位

J2通算対戦成績 : 3勝 1分 3敗

2009成績

第06節 09/04/05 岐阜 0-2福岡

第16節 09/05/30 福岡 0-1岐阜

第46節 09/10/21 福岡 0-1岐阜

2010成績

第06節 10/04/11 福岡 0-2岐阜

2010J2 順位表 第3節

(#は消化試合が1多い)

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	柏	73p	+41	64	23	H	A
#2	甲府	68p	+31	69	38	H	
3	福岡	62p	+26	59	33	A	
4	千葉	57p	+22	56	34	A	H
5	横浜FC	53p	+10	52	42	A	H
#6	東京V	52p	+10	43	33	H	A
7	熊本	50p	-3	35	38	A	H
8	栃木	47p	+6	42	36	A	
9	徳島	47p	+4	49	45	A	H
10	愛媛	47p	+2	31	29	H	A
11	鳥栖	47p	+1	40	39	A	H
12	草津	42p	-11	33	44	H	A
13	岐阜	41p	-13	28	41	---	---
14	札幌	39p	-6	32	38	H	A
15	大分	38p	-10	36	46	A	H
16	水戸	34p	-15	25	40	H	A
17	岡山	31p	-22	24	46	H	A
18	富山	24p	-32	34	66	H	A
#19	北九州	15p	-41	20	61	A	H

次回 HomeGame

第3節 『ホーム最終戦』

栃木 SO戦

11/28(日) 13:00

@長良川球技メドウ

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

F C岐阜大好き通信(岐大通)

11/23号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田鑄造

編集子より

ご愛顧いただきありがとうございます。今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしくお願致します。

ALADDIN

何も無い店だけど・・・心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしゃいませ」より

「おかえりなさい」が似合

アットホームな韓国料理店

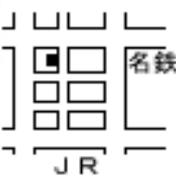
『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅

から徒歩3分。

休: 日曜日

(今日は営業しています)



Living in Woods

本庄工業株式会社

http://www.honj-woodream.com/

鳥栖戦レポートの続きです。

9対5。終わってみれば、実に画期的な試合だった。シュート数ランキングでずっとブービーかブービーメーカーを維持している岐阜が、相手の倍近くシュートを放つなんて……。いや、皮肉でも何でもなく、実際後半の鳥栖のシュートはゼロ。5本中4本は先制点後の落ち着かない時間帯に撃たれただけ。確かに、危ない場面もあったけれども、体を張って防いだ結果、公式記録にはシュートと認定されなかった。後半に入ってからの鳥栖はほぼ守備一辺倒で、まったく怖さがなくもう少しで得点できた。一点取ったら逆転できた。だけど、結果は0-1の完封負け。この日が「押谷の日」じゃなくて残念だ。キーパー不在のゴールには飛ばないし、ドンピシャのボレーはキーパーの胸に一直線。逆サイを狙ったクロスは、ほんのわずか村上の足に届かず。自陣を固めた鳥栖に対し、アディショナル・タイム突入前から吉本を上げる総攻撃も実らず、最後まで神様にそっぽを向かれた押谷のFKが外れると同時にタイム・アップ。実にもったいない試合だった。というより、自ら勝利を手放してしまった敗戦かな？前半の入りはどうしちゃったんだろう？特に開始から失点をはさんだ15分くらいは、まったく集中できてなかったようにも見えた。とにかく、点を決められた相手FWに「DFがボーッとしてくれて助かりました。」なんて言われるようじゃ話にならない。スローインにオフ・サイドはないことくらいわかってるはず、と思うけど……。徳島戦を上回る恥ずかしい失点だったね。もう、こんな場面は見たくない。くれぐれもお願いします。あと、録画で見た交代のボードが上がった時の阪本の表情が忘れられない。もしかしたら、彼のサッカー歴のこんな屈辱的な交代は初めてのこともかもしれない。その悔しさ、情けなさは想像するに余りある。だけど、決してクサらないでほしい。まがりなりにも、Jリーグに名を連ねるクラブのスタメンを張ることまでは出来ている。さらに、チーム内には他にも本職じゃないポジションでもがんばってる選手がいる。とにかく、試合に出て経験を積むことが大切だ。クサらず、臆せず、思いっきり全力で突き進んでほしい。

(ぐん、)

キックオフ直後と前後半終了間際が「魔の時間帯」だって事は、サッカーを多少知っている者ならば誰でも知っている事だ(と思う)。選手達は当然知っているし、失点しないよう注意もしているはずだ(と思う)。確かに、どんなにレベルが高いリーグの試合でも、そうやって分かってもゴールが生まれるからこそ「魔の時間帯」って呼ばれるんだけどさあ…。

だからって、「あの失点はないよ〜」って言いたくなるような点の取られ方だった。キックオフ直後から、選手の連携や動きが悪く、なんか集中してないよなあ…と不安を感じていたら、なんと前半5分にスローインでDFラインの頭をあっさり越され、するりと裏に抜け出した敵FW豊田のループで失点。現地では僕は何が起こったのかよく分からず、流石に呆然&憮然とした。鳥栖のチーム得点王でもある1トップの豊田は絶対にマークを外しちゃいけない選手だったし、G恭平の飛び出しも中途半端だった。選手達、特にDF陣には猛省してほしい。

その後も、鳥栖は徹底的に左サイドから攻めてきた。今節は新井が出場停止で、阪本が久しぶりに右SBで先発したが、鳥栖の攻撃に対応できていなかった。だから前半13分に阪本野垣内に交代したのは理解できる。でも、それだったら、「なんで先発にしたかなあ…」って思いたくなるのも人情でして(苦笑)。交代を告げられ、「うわーっ」って顔を覆った19歳の若者が、この経験を引きずらず逆に活かしてくれることを切に願いたい。

この交代で守備は安定したが、問題は攻撃。相変わらず、パスの精度が悪かったりボールの貰い方が悪かったり、あるいは判断が遅かったり運動性に欠けていたり。激しく動き回り厳しくチェックしてくる鳥栖の守備を、岐阜の攻撃陣は崩して決定機に持ち込むことが出来ない。ボランチの橋本は「ボ

ールの出所」と徹底的に狙われ、FW押谷のドリブル突破も複数でブロックされる。Gからの吉本のヘッドは惜しかったけど…。後半早々には、野垣内が負傷して交代。怪我の容態は不明だが、彼は怪我からの復帰直後だったから、実は完治しておらずに同じ箇所を負傷したんじゃないかと誰もが思っただろうし、「なんで完治してないのにベンチ入りさせたかなあ…」って思いたくもなる。シーズン終盤なので、怪我人(交代で入った村上も、どこか怪我したまま無理している様に僕には見えた)が多いのはどのチームでも似た様な状況だろうが、それでも、他にベンチ入りできそうな選手はいなかったのだろうか？負傷はアクシデントだったにしろ、同じポジションで交代枠を2人も使ってしまったのは非常に悔やまれる。

その後は鳥栖の足が止まりはじめ、徐々に岐阜が試合のペースを握れるようになってくるが、しかし、何度か訪れた決定機を決めきることが出来ない。後半30分を過ぎると、鳥栖は5バックで完全に守りに入り、岐阜の勢いは更に強くなるが、それでも最後までゴールネットを揺らすことはできなかった。押谷の2本のシュートが決まってくれたらなあ…。

この結果、チームは3連敗(ホーム連敗)、5試合未勝利、3試合連続無得点。順位こそ前節と変わらず12位だが、10位との勝ち点差は3に開いてしまったし、次節は岐阜が休みの日。勝ち点差が更に広がったり、順位が下がる可能性だって十分にある。しかも今節は、クラブが「黒字化のために観客増を」と呼びかけた直後の試合だった。

僕は、昨年の『長良川劇場』での快進撃や天皇杯ベスト8という成績が、スポンサーやサポーターの増加に繋がったと思っている。どんなに営業スタッフが頑張っても、勝たなければ、良い試合をしなければ、観客も増えないし、クラブの収入も安定しない(ついでに言えば、選手自身の環境も良くなる)と思う。今日の試合は、チーム目標の10位を達成するためにも、また、クラブ目標の黒字を達成するためにも、必ず勝たなくてはならない試合だった。

この試合だけを捉え、試合全体としてみた場合には、悪くない試合だったと思う。前半途中からは鳥栖の攻撃を封じて、合計のシュート数は岐阜9本-鳥栖5本、後半だけだとシュート数ゼロに抑えているし、FKも2本と倍近く。しかし、前半15分間の集中力の無さは致命的だったし、残念ながら僕には、チーム全体としての「この試合は必ず勝つんだ」という気迫を感じる事ができなかった。今年のチームは守備を重視しているのは分かっている。しかし、それに捕らわれ過ぎてリスクを恐れ、攻撃しない(できない)のでは意味がないし、リーグ終盤ともなれば内容が良くても結果(勝ち点もだが、無得点なのは更に問題だろう)が出なければ不満も出てくる。しかも、前節の柏戦で目の前で昇格を決められて迎えたホーム戦という状況。様々な要因や想いが積み重なり、どんな想いで試合を見ていたかによって評価が異なっていたから、試合終了後の反応も拍手とブーイングが入り交じる複雑なものになったんじゃないかな、と思う。

ところで録画では、得点を決めた豊田陽平はインタビューでニヤニヤと「あんだだけDFがボーッとしてくれたんで、やりやすかったです」と非常に腹が立つ発言をしていて…これがスタジアムに流れてなくて(少なくとも僕は聞こえなかった)、本当に良かったと思った(苦笑)。

さて、残りは3戦。気持ちを切り替えて全部勝つしかない。今節の相手は上位の福岡。岐阜は11/14から試合がなかったが、福岡は11/17天皇杯、11/20東京V戦と強行日程(天皇杯は選手を総入れ替えしたみたいだけど…)。岐阜に有利な状況だが、昇格が懸かっている福岡は、勝利への執念をむき出しにして来るだろう。しかし、岐阜も目標達成のために勝たなくてはならない試合、しかもホーム戦だ。スタジアム全体で大きな声援を送り、僕らの選手達の後押しをして、そして今度こそ、勝利の歓喜を！

(ささたく)